

保姆の修養

寒 月 生

近來幼稚園の教育に關して、世の識者が注意を拂ふこと漸く多きを加ふるに至れるが如く見ゆるは喜ばしき現象である、或は幼稚園の制度の研究となり、或は慈惠的保育場の獎勵となりて現はれたる其面目の議論がある、又昨年末に於ては、保姆の待遇に關して法文が現はれた、即ち師範學校官制を改正せられて調導の地位に保姆を加ふることとなつた、又別に小學校本科正教員の資格を有する保姆に對しては、小學校調導と同一の待遇を與へらるる規定を設けられたのである、保姆の待遇問題に關しては、從來屢論議せられ、遂にフレール會の總集會の決議を以て、其の筋に建議をした事もあつた様に聞いて居る、又其々の有力者は、此の間に立ちて大に奔走盡力せられたのである、今や其の論議せるところの問題は、漸く解決せられて、保姆の待遇の昇進を現實にするに至つたの

は、誠に愉快に感ずるところである、加之、此の規定によりて幼稚園教育が一般教育系統の内に更に一步を進むるに至つた、換言すれば國家的意義が漸次加はること多きに至つたものと考へらるゝのである、從來の幼稚園は其の實際に於ては、教育上幾多の貢獻するところありしにも拘らず、其の教育者たる保姆は如何なる資格を有するものといへとも、(女高師の保姆を除く)國家の公人と認められなかつたのである、余輩は保姆が單に公人としての待遇を受くるに至つた事のみを喜ぶものでない、幼稚園教育者たる保姆の年來の苦辛經營空しからず其の教育上の功績漸く認められて、遂に小學校教員同様に國家の待遇を受くるに至つたであらうと信じて、中心より慶賀するのである、實に這般の規定は幼稚園事業の上に一新紀元を劃するものであると言つて可なりである、余輩は之の新紀元を迎ふると同時に保姆たるものは深く自ら戒めて職務の上に、自家修養の上に、更に一段の努力を加へねばならぬと信ず、之れ蓋し保姆當然の義務である。

一、體、幼兒教育の事たる、知識を傳ふるのでもな
 ければ技能を授くるのでもない、説くところは童
 話や作話である、示すところは豆細工とか粘土細
 工、常にお定りの唱歌を唱へて遊戯三昧に其の日
 を暮すのが、幼稚園教育の實際である、されば若
 し之を世の俗眼を以て眺めたならば、随分馬鹿氣
 た業務と見ゆるであらう、體よき子守位にしか思
 はぬであらう、保母の學徳才能の如きは、至つて
 淺薄で足れりと観するであらう、曾て或女教師の
 余が許に來りて曰うたことがある、自分は永年小學
 校教育者に従事したが、常に家政の繁劇なるに妨
 げられて自家の修養に缺陷多く、年所を経るに從
 ひ漸く學力減退して、新進氣鋭の人々と伍して教
 育場裏に馳騁せんこと頗る苦痛を感ずるに至れ
 り、聞く幼稚園の保母は學力を要すること少く、
 其の勤務も亦比較的輕易なるものなりと、驚くは
 適當の任所を得て保母たらんことを、當年俊秀
 の女丈夫、漸く其の雄姿凋落して競争場裏の劣
 敗者となり、あはれ其の隱家を幼稚園に求めんと
 するのである、其の苦衷や實に同情に値するもの

がある、とはいへ生憎に幼稚園はかゝる教育界の
 落武者の避難場ではない、老教師の隠居所ではな
 い、余輩は幼兒教育の眞義、幼稚園教育の本旨を
 懇切に説いて、其の蒙を散いてやつたことがある、
 然れども驕つて考へれば、彼の女教師をして這
 般の誤想を惹起せしめたる動機は、那邊に存する
 であらうか、恐くは彼女の眼に映じたる二三の幼
 稚園の實際が、不幸にも自家好適の隱遁所なりと
 の感想を與へたものがあるではなからうか、吾人
 は切に其の否らざるを祈るものである、若し現今
 幼稚園教育の實際にして幾何たりともかゝる傾向
 を有するものありとせば、ソハ由々しき大事であ
 る。

人間が環境に處して其の支配を受け、自家品性
 上に甚大なる影響を享くることは、顯著なる事實
 である、繁劇なる事業に従ふもの自ら機敏の動作
 を要し、規律嚴正なる業務に當るもの自ら几帳面
 の性格を與へらることは屢々見るところの事實で
 ある、曾て團扇に嗜好深き人に聞く、此の技に適
 せんと欲せば常に自己に勝るものを求めて相手と

し、思を凝らし工夫を重ねて鏡面に向ふの用意な
 かるべからず、徒らに勝敗のみに慮心して打たん
 か、必ず劣悪なる手のみ學ぶに至りて、決して上
 達することなしと、又之を畫伯に聞く、丹青の道
 に志すもの徒らにパンを得んことにのみ、思を馳
 せて欺作を繼りに出すことあらば、其の技漸く劣
 悪に陥るを免れず、吾て東都に其の俊才と稱せら
 れし新道畫家、一度パンの爲めに騙を田舎に求め、
 任にあること一年有半の田舎暮に、其の技倆忽ち
 下降して其の作風頓見るべきものなりと驚れり
 と、圓滌の末技より算術的技藝に至るまで、平生
 の相手とするの如何によりて、其の技倆の高下す
 ること斯の如く大なりである、實に環境の影響
 は恐しきものである、サテ余輩幼児教育の相手は
 何人であらうか、心身共に極めて幼稚軟弱なる幼
 兒である、余輩は日々彼等と室内に嬉戯し、遊園
 に手を携ふるのである、此の間に於て余輩の言語
 は優しくなり、動作は柔かになり、漸く性格の上
 にデリケートなる點を印するに至るであらうと思

はれる、又之れと同時に加ふる軟弱なる對象に日
 夕に親むによりて、動もすれば向上的努力の機會
 を少くすることがありはしまいか、一度二度は準備
 を怠にして幼児に臨みても、保育の出来ぬこと
 はない、正確なる算算がなくとも年來の慣例を反
 覆して之を行へば、極めて手軽に業務を仕終うす
 ることも出来るのである、此の如く苟且儉安以
 て久に彌らば、漸次因循姑息誠に煮え切らぬ性格
 を遺るに至るではあるまいか、若し夫れ此く迄下
 落し果てたる風潮によりて感化誘導を享くる可憐
 の幼兒ありとせば、其の不幸の大なること實に測
 り知るべからずである此の如き幼稚園があつたな
 らば彼の老女教師の勸迎するところならざるを得
 んやであらう然れども、余輩は深く信する、幼兒教
 育者の頭腦は、合理的に具案せられたる誘導を爲
 すに足り、其の品性は善良なる感化を附與するに
 十分であるべきであると、夫の傍び切りたる舊式
 の頭腦を以て、年來の陋力で僅かに其の資を塞き、
 敢て進歩的に修養を試みず済し込んで居つては

困るのである。

余輩は保姆諸君に勸む、常に職務の直接の準備として、保育の理論及び實際に關して、少くとも新刊書籍雜誌によりて研究を積まれんとを、今一つは精神的營養を十分にせられたきことである、換言すれば今少し自家の向上進歩の爲に思辨を費されたきことである、精神的營養法につきては或は宗教の信仰も可である、倫理學の研究も可なりである、然し余輩は必ずしも宗教に赴かずとも、精神又倫理學の系統的研究に待たずとも、精神の營養は之をとる道があると思ふ、ソハ決して六ヶ敷ことでない單に讀書を爲せば夫れで十分である、而して書目の如きも窮屈な道徳經でなくてよい、文學書も可なり、哲學書も可なり、傳記物などは更に可なりである、兎に角自己徳性の修養上裨益するものならば、何でも可なりである、要は毎日幾何の時間は必ず机に向ひて、靜座沈思書籍を讀むべきである、婦人の職分として家に入りては家政に關はることは重要なことであるが、總論前巻

檯で臺所に立ち働計りではあるまい、其の間に一時間位讀書の爲めに暇を見出すことは、子供の就寝後にも出来ることである、若し二六時中一時間も讀書の暇もなしといふものならば、ソハ決して閑暇なきにあらすして閑暇を作らざる怠惰者流の遁辭と申すべきである、又眞個寸毫も讀書することも出来ざるほど多忙なる家庭の主婦であるならば、到底公務に従事し得べきものでないのである、宜しく公人生活を棄て、専心家政に従事すべきものである、苟も公務に従事する以上は常に幾何の修養に努めて、職務實施の上に生氣あらしめねばならぬ。

(未完)

